TITLE

8
AUG. 20
タイト
定価580

北海道の自然、グルメ、スポーツ、映画のロケ地まで。

平成16年8月1日発行（毎月1回1日発行）第5巻第8号 平成12年11月24日第三種郵便



北北東に進路を取れ！

あなたの知らない北海道ドライブガイド

NORTH by NORTHEAST

Mercedes-Benz SL500, BMW 645Ci Cabriolet, Maserati Coupe, Audi A8,
Peugeot 307CC, Range Rover, Porsche 911 Anniversary Edition,
Skyline Coupe, Crown Athlete, Lancer Evolution VIII MR, Impreza WRX S

SUBTITLE
SUBARU
IMPREZA
STYLE BOOK

photograph by David Heald © The Solomon R.Guggenheim Foundation, New York

「霧」から「苔」まで、いろいろ考えてます。グッゲンハイム・コラボグッズ。

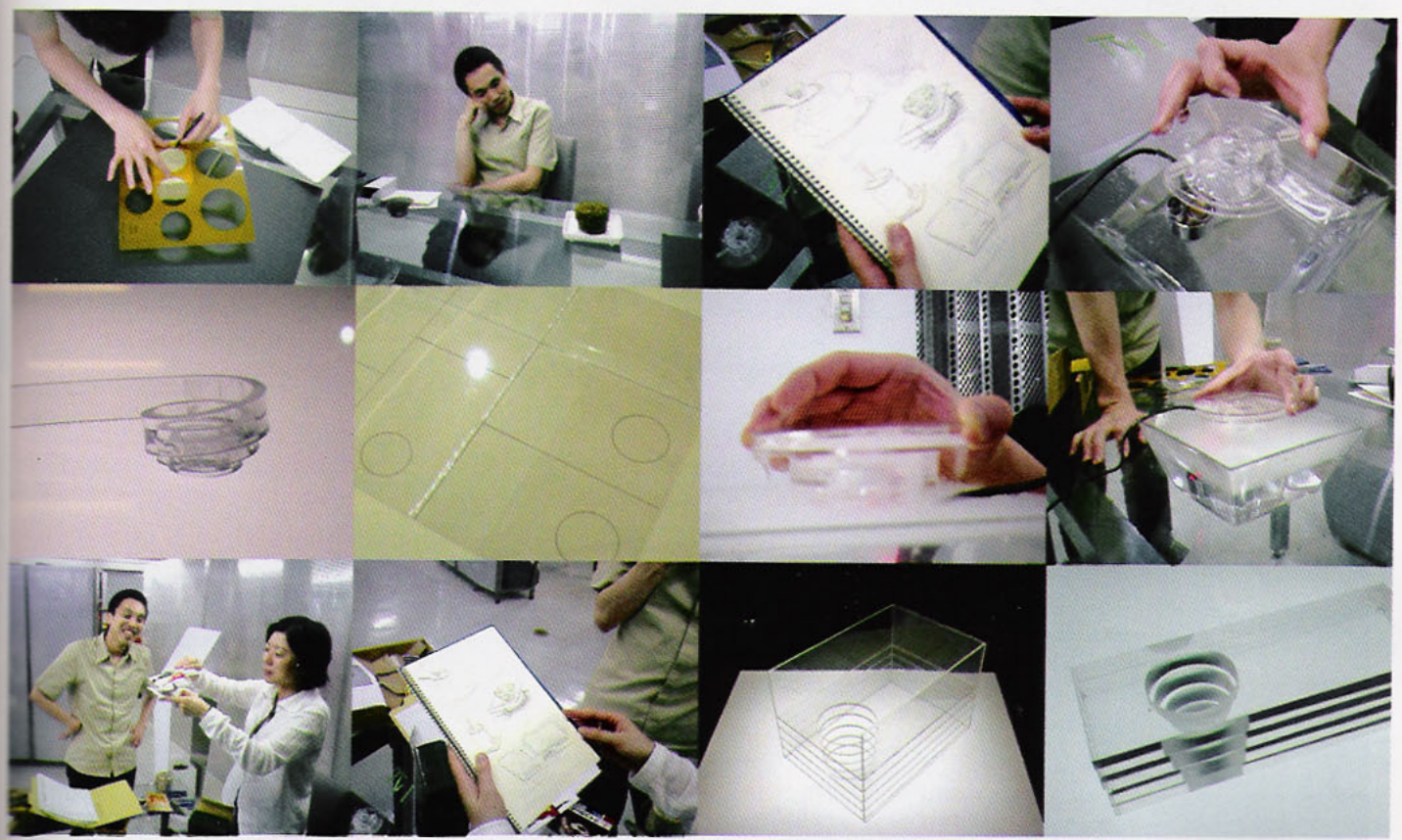
『TITLE』×「グッゲンハイム美術館展」のコラボグッズ企画は着々と進行中。とはいえ、なかなか悩みも多いのです、これが。

text : Yuko Harigae/giraffe



酒井俊彦

1964年高知県生まれ。東京造形大学卒。'91年に渡豪、帰国後(有)サカイ デザイン アソシエイツを設立。インテリア、プロダクツなど多方面で活躍を続けている酒井氏だが、美術展のコラボグッズとなると、苦戦することしばしばの様子。



美術展のグッズ制作と聞くと、アーティスティックでカッコイイ現場を想像しがちだが、実際にアイディアを練る時はかなり「図画工作の時間」っぽい。螺旋をモチーフにしたいろいろな形状を手づくりしたり、スポンジをくりぬいて苔玉の芯をつくってみたり……。はてさて、このたくさんの試作品から、いったいどんなコラボグッズが生まれてくるやら。

7月号でもご紹介した『TITLE』と「グッゲンハイム美術館展」のコラボレーション・グッズ企画。デザイナーの酒井俊彦さんと共に検討した結果、モチーフは美術館の構造から"螺旋"に、コンセプトは、美術展鑑賞という贅沢ではかない行為を表現するものとして、「はかない＝変化する」ものに決定した。さて次は、具体的にどんなアイテムをつくるかという段階になったわけだが、これがなかなか決まらない。

たとえば、酒井さんがはかないものとしてイメージしたものの中に、「霧」があった。螺旋状に広がる霧をつくれたら面白い！　というわけで、早速酒井さんは小さな霧発生機（あるんです、こういうものが）を購入。螺旋形の煙突のようなものを試作して被せてみたのだが、どうしても霧が螺旋状になってくれず、断念することに。

その他にも、煙が螺旋になるお香や、キャンドルが溶けた後に中から螺旋形のものがもう一つ出てくるようにできないか、などなど、ユニークなアイディアながら構造上実現がかなり難しいものは、やはりあきらめざるを得なかった。

それから「苔」。螺旋の形をした苔玉をつくり、購入の段階ではまだ芽が出ていないが、水を与えるとだんだんと緑に芽吹いていくことで「変化する」というコンセプトを表現しようと考えたわけだ。

最近の和ブームもあり、これは編集部スタッフも「ぜひ欲しい！」と、酒井さんにお願いして試作品を手づくりしてもらった。グリーンに苔むした姿を楽しみにしていたのだが、実際に製造するとなると話は別だった。

何しろこのコラボグッズは約3カ月の開催期間限定、しかも会場のみでの販売なので、ロットに限界がある。となると、お願いできる業者さんもなかなか見つからないのだ。酒井さんが「苔シート」を貼ってつくった試作品は、こうして幻の苔玉になってしまった。

とまぁ、なかなか悩みのつきないコラボグッズ企画。だが、これだけ悩んで練り上げたのだから、制作が決定したグッズには期待がかかろうというもの。どのグッズも、楽しくてちょっと意外なアイディアのものばかり。さてその内容は……来月号の公開まで、もうしばらくお待ちください！

いよいよ開催迫る！
「ニューヨーク グッゲンハイム美術館展」

ピカソ、レジェ、ウォーホルなど、グッゲンハイム美術館所蔵の名作79点を集めた展覧会が渋谷のBunkamura ザ・ミュージアムで開催。7月17日～10月11日、開催期間中無休。問ハローダイヤル03-5777-8600 www.guggen.jp